

vol.
003

2012 1 25発行



七島い栽培の伝統を

次世代へつなごう



新年明けましておめでとございます。会員の皆様には、新しい希望に満ちあふれていることとお喜び申し上げます。

くさき七島蘭振興会は今年も、七島いのさらなる栽培普及、豊表織技術の向上、販路の拡大、宣伝などに努めてまいります。栽培上の問題として、除草対策や害虫対策は待ったなしですが、東部振興局などのご協力も仰ぎながら対策を考えていきます。さらに、新規就農者の発掘や地域産業としての在り方についても国東市民の皆様がたと議論していきたいと考えております。

私は、小面積ですが今年も七島い苗を作付します。遺伝資源の維持だけではなく、栽培上の問題点、とくに害虫発生を観察など、より実りある栽培につなげていければと考えております。国東地方に残された七島い栽培の伝統を次世代につなぐためにも、会員の皆様と心をついにしてがんばっていく所存です。

2年目を迎える「くさき七島蘭振興会」をさらに実りある会にしていくために、昨年にも勝るご支援を会員各位にお願い申し上げます。

平成24年1月13日

くさき七島蘭振興会 会長 林 浩昭

七島蘭製品 後継者育成セミナー開始



昨年12月より厚労省の地域雇用創出事業がスタートしました。この事業の一環として、1月19日国東市『アストくにさき』にて「第三回七島蘭製品後継者育成セミナー」が開催されました。このセミナーは、七島いの豊表

ならびに、かつて作られていた円座など七島い製品全般の後継者育成を目的として行なわれています。第三回目のこの日は、18名の参加者が集まり、円座の元になる三つ編みの縄を作成。講師に富永二代さんを迎え、手作りの楽しさを体験しました。今後、豊表の制作やラグマットの制作も予定されています。まだまだ集めていますので、七島いや七島工芸に興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。



お問い合わせ

国東市雇用促進協議会
0978-17215183

七島イの認知度アップを



大分合同新聞より

2月23日国東市役所へ訪れ、三河市長、次森県東部振興局長に七島イで作った円座10枚を贈りました。三河市長、次森局長は「七島イは国内で唯一の生産地となっている大分県の貴重な特産品。魅力を来訪者にしっかりとPRしたい」と答えた。

シリーズ第2弾

この人に聴く



シリーズ「この人に聴く」第2段は、新規就農者の淵野夫妻にお話を伺いました。

Q、七島イとの出会い

A、二人で将来一緒に仕事をしたかった。そんなとき偶然新聞で七島イの記事を見て、昔おばあちゃんが七島イ栽培をしていた話を思い出し運命的なものを感じ、思い切って事務局へ電話をかけました。

Q、一昨年を振り返って

A、実際に杭打ちや、苗取りを体験してみました。が鍬（くわ）を扱うのも初めてでとても難しいけれど楽しく、やりがいがあります。

Q、今後の活動

A、今年も、現在住んでいる別府から国東市安岐町に拠点をかえ、七島イ農家の松原さんのもと、研修していきます。これからも夫婦2人力を合わせてがんばっていききたいと思えます。

七島イの歴史

●第1回 七島イの伝来と、逸話

もともと大分には七島イは栽培されていたわけではなく、江戸初期の府内の若き商人の夢と野望によつてこの地に広まったと伝えられている。そのような七島イにまつわる話をシリーズとして書き記していこうと思う。



五郎右衛門、小舟に身を託し、賣い草を求めて航海へ

今回は、大分に広めた若き商人の話から進めていこう。時代は寛文三年（一六六三年）、府内城下桜町（現在の中央町）に、「橋本屋」という荒物屋があった。御用商人でもある事から薩摩には頻繁に行き来していた。四代目の当主、八郎右衛門の第五郎右衛門（二十八才）が商用の為さつまに出向いた時、たまたま琉球から渡来した「草むしろ」というものを見て驚いた。その草むしろは府内で売られているカヤむしろに比べ、青々として、色つやが良く何とも言えない良い香りがするものであった。「これは素晴らしい、何という草か知らないが、カヤの代わりにこの草を用いたら、儲かることは間違いないだろう」

と商人らしいカンで五郎右衛門はすっかり、この琉球の青い草の虜になってしまった。次回に続く

参考文献「豊後の七島い その歴史を追って」

大分県農業技術センター 前田 哲夫

七島雑感

寒さ真つただ中の一月十九日、本紙にも掲載しているが、七島イ後継者育成セミナーを行った。産地である国東でも七島蘭を実際目にしたたり、ましてや、触ったことのある方などほとんど皆無に近い。講師の富永女史の「しなやかで伸びるんです」「三つ編みの縄を編んでいるといやされて、時間をわすれるんです」という言葉を講習者の皆さん実感されながらも、悪戦苦闘の二時間でした。今回は、もつと多くの方に七島蘭を実感してもらいたいものです。

事務局長 細田利彦

会員募集のお知らせ

途絶えつつある七島蘭の保存とともに、新しい地域産業として再生させるといふ趣旨にご賛同いただける個人ならびに企業の会員の募集をしております。

会員の方には、七島蘭の植え付け、刈り取りの農業体験や、生産者との交流会も開きたいと思えます。途絶えようとしていた七島蘭ですが、大分県や国東市の支援により再生への道筋もようやく見えてきました。

どなたでも気軽に参加できる会にしたいと思っております。会員一同、一人でも多くの方のご参加をお待ちしております。